



工芸をわかっているつもりになっていないだろうか？
種々雑多な様相をみせる「KOGEI」について
俯瞰して見方を深めるころみ。 (秋元雄史)

二十世紀塾とは 様々なジャンルで活躍するアーティストや知識人との話場を定期的に設置、発展させていく二十世紀の寺子屋3年目です。今年は若い才能や新しい表現が生まれてくる現場を作っているキュレーターをモデレーターに迎え、今まさに誕生してくるモノや表現を体感していただきます。

タイトル	二十世紀塾 二〇一〇 No.1 「KOGEI、いろいろ～芸術のなかの工芸、生活のなかの工芸、産業のなかの工芸、地域のなかの工芸」
出演	ゲストスピーカー：ジョー・アール(ジャパン・ソサエティ・ギャラリー ディレクター) パネリスト：原智(作家、金工)、中田博士(作家、陶磁)、田中信行(作家、漆)、辻和美(作家、ガラス)、山村慎哉(作家、漆) モデレーター：秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)
日時	2010年6月19日(土) 開場15:30 開演16:00 第1部：ジョー・アール氏 レクチャー 第2部：パネルディスカッション
会場	金沢21世紀美術館 シアター21
料金	前売 ¥800 / 当日 ¥1,000 (全席自由・1ドリンク付) ※前売券をお持ちの友の会会員は優先入場特典があります。開場の10分前にお集りください。(入場時、会員証提示)
チケット取扱	金沢21世紀美術館ミュージアムショップ TEL 076-236-6072 チケットぴあ [Pコード:617-310] ローソンチケット[Lコード:55421]
主催・お問合せ	金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団] TEL 076-220-2811(交流課)

本資料に関する
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 広報担当/黒田 事業担当/近藤、中山
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814(広報室) FAX 076-220-2806
http://www.kanazawa21.jp E-mail: press@kanazawa21.jp



プログラム

＜第1部＞ ジョー・アール氏 レクチャー

ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館を経て、現在ニューヨークのジャパンソサエティギャラリーのディレクターを務める日本工芸の専門家ジョー・アール氏。近現代の日本の工芸における課題や提案について、グローバルな視点からお話します。

＜第2部＞ パネルディスカッション

パネリスト：原智(作家、金工) モデレーター：秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)
 中田博士(作家、陶磁)
 田中信行(作家、漆)
 辻和美(作家、ガラス)
 山村慎哉(作家、漆)

開催中の「第1回金沢・世界工芸トリエンナーレ*」の出品作家より、金沢、加賀の中堅、若手作家がパネリストとして加わり、ディスカッションを行います。今の工芸について作家はどのように思っているか、その中で自分の仕事をどのように位置づけているかについて語り合う中で、工芸の様々な側面が現れてくるでしょう。それを国際的な批評の俎上にのせながら、金沢の工芸の今後の展開を模索します。

* 第1回金沢・世界工芸トリエンナーレ

金沢市では、1995年の「世界工芸都市宣言」以来、「世界工芸都市会議・金沢」および「世界工芸コンペティション・金沢」を開催してきました。本トリエンナーレは、双方の主旨を継承しながら統合し、発展させたものです。第1回目となる今回は、秋元雄史をディレクターとし、5人のキュレーターによる展覧会とシンポジウムを開催しています。時代とともに変化する工芸の位置づけや枠組みを問いながら、新たに生まれてくる新しい時代の工芸を金沢へ、そして世界へ紹介します。

<http://www.kogei.bp-musashi.jp/>

開催概要

【テーマ】工芸的ネットワーク

【会期・会場】2010年5月8日(土)～6月20日(日)／リファーレ2F ※月曜日休

2010年5月8日(土)～5月16日(日)／金沢21世紀美術館 市民ギャラリーA(終了しました)

【開館時間】10:00～18:00

【料金】入場無料

関連情報

ジョー・アール氏金沢滞在中の主な予定

6月18日(金) 午前 「第1回金沢・世界工芸トリエンナーレ」 見学
 午後 金沢卯辰山工芸工房 見学
 山出保市長 表敬訪問
 6月19日(土) 午前 大樋美術館 訪問
 金沢美術工芸大学 訪問
 午後 田中信行氏スタジオ 訪問

※作品や工房の見学風景や作家との意見交換の様子もご取材いただけます

ポッドキャストラジオ Marubi on the Radio



6月15日配信号で館長の秋元が「KOGEI,いろいろ」について紹介しています。
 アクセスはこちら→<http://marubiontheradio.com/>

出演者プロフィール



ジョー・アール Joe Earle

オックスフォード大学卒。1974年よりヴィクトリア&アルバート美術館(ロンドン)東洋美術部門に勤務、83年、同美術館の東洋美術部長に就任。86年、The Toshiba Gallery of Japanese Artをオープン。91年、『Japan Festival 1991』のハイライト企画である『Visions of Japan』展に携わり、以降、主要美術館、オークションハウス、アートディーラーのコンサルタントとして、日本、欧米において数々の展覧会企画を手がける。2003年、ボストン美術館アジア・オセアニア・アフリカ美術部長就任以来、改めて日本美術に焦点をおいた様々な特別展を開催したほか、膨大なアジア・コレクションの資料化を進め、5万枚に及ぶ浮世絵版画のコレクションをデジタル化して、ウェブで公開する事業を開始。07年よりジャパン・ソサエティのバイス・プレジデント兼ギャラリー・ディレクター。



photo: CHISATO HIKITA

秋元雄史 Yuji Akimoto

金沢21世紀美術館館長

1955年東京都生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科卒業。91年から2004年6月まで、(株)ベネッセコーポレーションに勤務。美術館の運営責任者として国吉康雄美術館、ベネッセアートサイト直島(旧・直島コンテンポラリーアートミュージアム)の企画、運営に携わる。ベネッセアートサイト直島では、97年から2002年まで直島・家プロジェクト(第一期)を担当。主な展覧会は、「直島スタンダード」展、「直島スタンダード2」展など、街中の民家、空家、路上など直島全体を会場とした屋外型美術展の開催。1992年～2004年までベネッセアートサイト直島、チーフキュレーター。2004年～2006年12月まで地中美術館館長／(財)直島福武美術館財団常務理事、ベネッセアートサイト直島・アーティストックディレクター。2007年より現職。

原 智 Satoshi Hara

1962年横浜市生まれ。東京芸術大学大学院鍛金研究室修了。東京を中心に屋外作品を多数設置。近年はさまざまな素材と技術を制作に積極的に取り入れ、色金を中心とした研究と作品制作を行う。2003年金沢美術工芸大学工芸科助教授(現准教授)に就任し現在に至る。

中田博士 Hiroshi Nakada

1979年石川県小松市生まれ。2004年京都精華大学卒業。05年第7回国際陶磁器展美濃銅賞、09年第56回日本伝統工芸展新人賞を受賞。国内各地にて個展・グループ展を開催。磁器による器型作品を中心に制作活動。

田中信行 Nobuyuki Tanaka

1959年東京都生まれ。83年東京芸術大学美術学部工芸科卒業、85年同大学院美術研究科漆芸専攻修了。2003年第14回タカシマヤ文化基金タカシマヤ美術賞受賞。漆の独自の造形言語を生み出すこと、そのことを通して日本人の固有な美意識から生まれる表現を追求している。最近の主な展覧会に、04、08年個展(KOICHI YANAGI Oriental Fine Arts・ニューヨーク)、07年「六本木クロッシング2007 未来への脈動」(森美術館・東京)。08年「JAPAN! CULTURE+HYPER CULTURE」招待出品(ケネディセンター・ワシントンDC)。09年個展「漆が喚起するもの」(入善町下山の森発電所美術館・富山) 現在、金沢美術工芸大学工芸科教授。

辻和美 Kazumi Tsuji

1964年金沢市生まれ。金沢美術工芸大学卒業後渡米、カリフォルニア美術工芸大学でガラスを学ぶ。金沢卯辰山工芸工房・ガラス工房専門員を経て、96年にガラスデザイン制作ユニット「factory zoomer」をスタート。同時に現代美術の活動を開始。99年に金沢市に工房を設立。

山村慎哉 Shinya Yamamura

1960年東京都調布市生まれ。金沢美術工芸大学大学院修了。主な受賞歴に朝日現代クラフト展ジュエリー部門賞、国際漆ジャパンデザインコンペティション 96銀賞ほか、ヴィクトリア&アルバート美術館、スコットランド王立美術館、ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアムなど国内外の美術館に作品が収蔵されている。漆芸の加飾(蒔絵・螺鈿・卵殻・鞘塗)を中心としたオーナメントやジュエリーおよび「茶」や「香」における道具類を制作。現在、金沢美術工芸大学工芸科教授。

※上記プログラムについて、貴媒体にて広く掲載・取材いただきますようよろしくお願い申し上げます。

※写真をご希望の場合や当日のインタビュー及び取材をご希望の方は、広報室までお申し付けください。お待ちしております。